

新上五島町

のどかな風土に
草を食む馬やヤギの姿
明るい子どもたちの声
ここには日本の
原風景があります



くらしの学校 えん
南松浦郡新上五島町小串郷40 ☎0959-55-2707
代表 小野 敬さん
平成10年、横浜市から新上五島町に移住。自給自足を基盤に海塩の製造・販売を行いながら、自然体験・環境学習を提供する「くらしの学校 えん」を主宰

本物の自然を体験！ 五島列島しまキャンプ

新上五島町は、美しい白浜や海食崖など変化に富んだ地形が特徴の中通島と若松島をはじめ、およそ67もの島々からなります。一番大きな中通島北部の大浦地区にある「くらしの学校 えん」代表の小野敬さんは、平成10年に横浜市から移住。決め手になったのは、目の前に広がる雄大な海と背後に広がる森林で、「ここなら塩づくりをしながら、昔からの夢、自給自足の生活ができる」と確信したそうです。

しかし、大浦地区は小野さんが移住するまで8年間無人だった地域。湧き水を引くところは、燻で塩を炊き、その合間に田畑を少しずつ開墾しました。島の人たちには、野菜や魚などの差し入れをいただくなど、大変お世



『春休み五島列島しまキャンプ』では、プロの音楽家を招いて「音で遊ぼう」をコンセプトに、島内外の40人の子どもたちが音と遊びながら6日間を過ごした



羽釜を使って炊いたご飯を食べる子どもたち。キャンプ参加者にはリーダーが多く、小さい頃に参加した子がリーダーとなって再び参加することもある



単身で移住した小野さんは、新上五島町出身の千鶴さんと結婚。息子の太志くんも自然の中でたくましく育っている。ポニーやヤギなども、敷地内の段々畑や雑木林で自由に過ごしている

矢堅目の駅
上五島の名所の一つ、矢堅目の岩の絶景を望む地にある塩工房。施設内では塩づくりの様子を見学できる。ここで作られた「矢堅目の塩」とにがりの入った塩ソフトクリームも販売
新上五島町網郷688-7 ☎0959-53-1007

頭ヶ島天主堂
かしらがしま
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つである頭ヶ島集落に建つ石造りの教会。1919年、教会建築で名高い鉄川与助の設計施工によって完成した※見学の際にはパーク&ライドにご協力ください
新上五島町友住頭ヶ島638

くらしの学校 えん

五島うどんの里
有川港そばの複合施設。コシがありつつもつるつるした食感が特徴の五島うどんの店「うどん茶屋 遊種三味」と食べ物から雑貨まで上五島のお土産が揃う観光物産センターがある。センター内では観光情報なども提供
新上五島町有川郷428-31 ☎0959-42-0964
(新上五島町観光物産協会)

日島の石塔群(日本遺産構成文化財)
1300~1400年代にかけて関西・北陸地方で製作されたとされる石塔類が散在している。当時の日島の活発な海上交易を物語る貴重な史跡
新上五島町日島郷字曲12

高井旅海水浴場
白浜に澄んだ青い海が特徴の海水浴場。サーフィンなどを楽しむ人も多く、すぐそばにはログハウスやコテージ、テニスコートなども完備
新上五島町奈良尾郷字高井旅 ☎0959-42-0964 (新上五島町観光物産協会)

表紙の絵にスマホやタブレットをかざすとAR動画が見られます！
※BGMには、大島ミチルさん作曲「Nagasaki Green&Blue」を使用しています。 「よかテレ」でもチェック！

step 1 まずは無料のARアプリ「COCOAR2」をスマホやタブレット端末にダウンロードしましょう
App Store
Google Play Store
COCOAR2 検索

step 2 「COCOAR2」を起動し、表紙イラスト(P11のレシピの写真でも動画が見られます)を読み込んでみましょう。画像を感知すると、自動で動画が再生されます。読み込んだあとは、端末をかざしてなくても見ることができます

読者プレゼント!
「海のめぐみ 手塩」
P15の読者プレゼントの応募方法で、動画の中に出てくるキーワードを書いて応募ください。抽選で5名様にプレゼントします。

表紙のこぼ『頭ヶ島天主堂』
今月の絵になる風景は、頭ヶ島天主堂。禁教期にキリシタンが迫害を逃れて住み着いた頭ヶ島集落。信者が近くの島で石を切り出し建てられた教会は、長い信仰の歴史を物語っています。

今年春からは山村留学も開始し、東京から来た小学生の男の子が小野さん家族と暮らしながら地元の小学校に通っています。人と人、人と自然の縁をつなぐ小野さんの活動は、これからも島に元気を与えてくれそうです。

「この島には、自然や人、食べ物などの宝がたくさんあります。一度キャンプに参加した子どもたちは、この島を第二のふるさとと感じているようです。みんな「また帰ってきます」と言っていていくんですよ」。

話になったと当時を振り返ります。
海塩の製造・販売が軌道に乗り、自給自足の生活に挑戦しながら、平成13年から小学生を対象にした『しまキャンプ』を始めました。移住前は、指導員としてさまざまな野外活動に従事していた小野さん。しまキャンプは上五島でやりたかった夢の一つでした。「自然とふれあえる場所が少なくなった今、子どもたちに自然の大切さや命の尊さ、そして自然と共に生きる素晴らしさを伝えていければと思って始めました。ここには普通のキャンプ場にあるような設備はありませんが、薪でお風呂を沸かし、ご飯を羽釜で炊くなど、現代の子どもたちにとっては非日常的な体験。感動させる自信があります」。

当たり前のようには与えられている生活環境の一つひとつを自分たちの手でつくり上げることで、その大切さに気づき、感謝する。仲間と助け合うことで協調性を育む。これが「くらしの学校 えん」の基本理念であり、しまキャンプで子どもたちに手渡したい「おみやげ」と語ります。すでに全国各地から750名を超える子どもたちが参加。最近では地元の子どもの交流も行っています。